

# 第13回対話の場について



- 日時：2023年3月29日（水）18：30～
- 場所：漁村センター
- 出席者：委員17名、ファシリテーター7名、神恵内村、経済産業省、北海道庁、NUMO

## <対話のテーマ>

- ◇ 運営委員会の開催結果報告
- ◇ 文献調査の進捗状況について



## 運営委員会の開催結果報告

- ▶ 次回は「放射線防護」をテーマとし、専門家をお招きして講演をいただく予定です。
- ▶ 対話の場委員の任期満了に伴い、継続意向の確認結果と新たな委員の募集結果を報告しました。現在委員の皆さまには継続して務めていただけることとなり、新たな委員の応募はありませんでした。

## 文献調査の進捗状況について

- ▶ NUMOから「文献調査の進捗状況」について報告しました。
- ▶ 現在は、引き続き「文献・データに基づく評価」を進めており、その評価の考え方（評価基準など）について、国の審議会で審議されています。
- ▶ 審議会はこれまで3回開催されました。（2022年11月、2023年1月、3月）
- ▶ 審議会では、以下の項目について専門家の意見を聞きました。今回の対話の場では、「断層等」や「マグマの貫入と噴出」などについて、神恵内村における検討例を説明しました。

### <文献調査の流れ>

(1) 文献調査の開始

(2) 文献・データの収集

(3) 文献・データに基づく評価

(4) 報告書の作成

実施中

### 項目ごとの基準：最終処分法に定められた項目

- 1.断層等
- 2.マグマの貫入と噴出
- 3.地熱活動（非火山性含む）
- 4.火山性熱水や深部流体の移動・流入
- 5.侵食
- 6.第四紀の未固結堆積物
- 7.鉱物資源

「地質環境特性の検討」に含む

### その他の評価

- ・地熱資源（※）
- ・地下の状況のとりまとめ（地層や岩体、断層などの分布）
- ・地質環境特性の検討

（※）最終処分法に定められていないが原子力規制委員会から考慮すべきとされている項目

青字：前回までの対話の場で説明済

## 文献調査の進捗状況についてのテーブルワーク

- NUMOからの報告の後、テーブルワークにてご質問やご意見を伺いました。
- 以下では、対話の場で発表された各テーブルのご質問やご意見の一部について、NUMOからのご回答とあわせて紹介します。

（避けるべき条件のひとつとして）「火山の中心から半径15km圏内」が説明されていたが、その根拠はなにか。

- ▶ 富士山の過去の側火山（※1）の位置がおおよそ半径15km圏内に収まっており、他の場合でも同じことがいえる。規制委員会から考慮すべきとされている事項にも、「火山の活動中心からおおむね15km以内は避けるべき」という同じ考え方が示されている。

（概要調査にて）火山の15km圏外のところで掘ってみて、もし何か重大なことがあれば途中でやめるということもあるのか。

- ▶ 概要調査地区全体が基準を満たしていないことが明らかとなった場合は、中止になる可能性もあるのではないかと。

（地中の環境で）この温度以上では地層処分はできないという基準はあるのか。

- ▶ 地下の温度については、処分場を閉鎖した後の影響と、地下で作業する際の作業環境の問題があるが、一概にこの温度以上ではできないという基準はなく、総合的な判断が必要。科学的特性マップでは、15℃/100mより大きな地温勾配（※2）を好ましくない範囲としている。

（地層の話で）活撓曲とはなにか。読み方も教えてほしい。

- ▶ 「かつとうきょく」という。地層がたわんで曲がることで、折れると断層になり、今も動いているもののことである。地層が柔らかい浅い所に多い。

（火山の報告の中で）熊追山の話があったが、基になった2012年の文献の後には、調べられていないのか。気になるのでしっかり調べてほしい。

- ▶ 2012年の文献はデータベースであるためしっかり調べられた情報ではないが、無視はできないので報告に加えている。

（※1）：火山の頂上の火口から離れた山腹にできる小型の火山のこと。

（※2）：深度の増分に対する地温の増分の比のこと。

対話の場における配付資料や映像は、NUMOホームページでご覧いただけます。

NUMO <https://www.numo.or.jp/>



当日の資料などについては、NUMOのホームページのほか、神恵内交流センターにおいても配布しております。より詳しい内容にご関心のある方は、以下の問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。（お問合せ先：0135-67-7711）